

狛江高等学校 令和3年度 教科 公民 科目 政治・経済 年間授業計画

教 科 : 公民 科 目 : 政治・経済 単位数 : 2単位

対象学年組 : 第3学年1組～8組

教科担当者 : 1組 : 小倉 2組 : 横山 3組 : 小倉 4組 : 横山 5組 : 小倉 6組 : 小倉 7組 : 横山 8組 : 横山

使用教科書 : 『高校政治・経済 新訂版』〈実教出版〉

使用副教材 : 『最新政治・経済資料新版2021』〈第一学習社〉

| | 指導内容 | 科目政治・経済の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|-----------------|---|--------------|----------|
| 4 月 | 民主政治の基本原則と日本国憲法 | 社会契約説について、現代の民主政治との関連を踏まえて学習する。例えば、ホッブズとの比較の上でロックが説いた自然権に基づく国家・政府の在り方は現代の議会制民主主義の基盤となっていることなどを理解する。 | 定期考査 授業態度 | 2 |
| | | 大日本帝国憲法との違いを明確にしつつ、現行憲法の三大原理を理解するとともに、旧憲法では天皇が統治権を総攬するとしていたが、日本国憲法においては天皇が、内閣の助言と承認により国事に関する行為を行うとされる象徴天皇制となっていることを理解する。 | | 2 |
| | | 我が国における三権分立の仕組みについて、国会・内閣・裁判所の各機関の働きと相互の関係を踏まえて理解するとともに、議院内閣制の特徴を、とくに大統領制との比較によって理解する。 | | 2 |
| | | 現代の民主社会においては国民の代表者からなる議会によって法が定められており、国民には法を遵守する義務があることを理解する。しかし、それは広い目でみれば、国民主権の下に制定された憲法によって規定されたものである。そこから、国家は国民によって統治されているという構造を理解する。 | | 2 |
| 5 月 | 民主政治の基本原則と日本国憲法 | 自由権的基本権と社会権的基本権の相違を踏まえ、成立の背景に経済格差が存在していたことを理解しつつ、具体的な内容について理解する。例えば生存権の保障は、夜警国家から福祉国家への転換や福祉政策に関わる立法過程と深く結び付いていたことを理解する。 | 定期考査 授業態度 | 2 |
| | | 現代社会における相互の権利や利害対立を調整するための原理が「公共の福祉」とよばれ、これを常に参照し、合意に資する努力をすべきことを、経済的自由権の制限に関する判例学習を通して理解する。 | | 2 |
| | | 我が国の議会制民主主義について、日本国憲法の条文に則して理解するとともに、議院内閣制を採用するイギリスや大統領制を採用するアメリカ合衆国の政治制度との比較を通じて、その特徴を理解し、そのメリット・デメリットについて考察する。 | | 2 |
| | | 我が国の地方自治制度において、住民自治の実現を図るために憲法等で条例制定・改廃、議会の解散、議員・首長の解職等についての直接請求権が認められていることを知ることから、地方自治が民主主義の学校として期待されていることを理解する。 | | 2 |

| | 指導内容 | 科目政治・経済の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|-----------------|--|----------------------|----------|
| 6 月 | 民主政治の基本原則と日本国憲法 | 同じ民主政治を採用しているとはいえ、世界各国の政治体制や政治状況は多様であることを理解するとともに、現代における福祉国家の広がりに伴って国家機能の複雑化が進行し、結果、現代国家が行政国家化している現状について考察する。 | 定期 考査 授業 態度 | 2 |
| | 現代の国際政治 | 我が国の戦後政治史を概観し、中選挙区制の下での自民党による長期政権持続や、選挙制度改革後の政権交代の流れなど、選挙制度と政治情勢の変化について事例を踏まえて理解する。 | | 2 |
| | | 国際社会の多極化が進行した世界で環境、人権、貿易などの分野で各国の対立が発生し、深まりをみせる中で、国際機関や非政府組織(NGO)による問題解決のための取組が強く求められている現状を理解し、自分たちがその活動にどのように参加していけるのかを考察、構想する。 | | 2 |
| | | 三十年戦争後のウェストファリア条約を端緒とする主権国家の成立や、主権国家体制と国際法による秩序形成の意義について理解し、現在の国際問題を考える土台とする。 | | 2 |
| 7 月 | 現代の国際政治 | 国際法上の人権、国家主権に関する規定を理解するとともに、我が国固有の領土である北方領土、竹島、尖閣諸島をめぐる問題の経緯と我が国の正当な立場と問題解決の難しさを理解する。 | 定期 考査 授業 態度 | 4 |
| | | 冷戦後の国際政治の動向を踏まえ、人類の平和的共存を実現するには民族対立や国際紛争の背景にある「文化・宗教の多様性」について互いに理解を深めることが重要であることを、紛争の実例の学習を通して理解する。 | | 4 |
| 9 月 | 現代経済の仕組みと特質 | 生産された財やサービスを効率的に分配するための仕組みとして私たちの国では市場経済が発達してきたことを理解し、それが世界史的な経済体制の動きと深い関係があることについて考える。 | 定期 考査 授業 態度 | 2 |
| | | 家計、企業、政府の経済的な相互関係が国民経済の全体を構成していることや、貿易や為替における円高・円安の相場の変動や国際経済の動向が国内経済にも影響を与えることを理解する。 | | 2 |
| | | 需要供給曲線を活用して価格メカニズムについて理解するとともに、公害などの外部不経済の発生や、企業の巨大化に伴う寡占の広がりと、市場機構が十分に機能しない場合には、政府による適切な政策を通じた公共財・公共サービスの供給が必要であることを理解する。 | | 2 |
| | | インフレーションやデフレーションの発生が国民生活に与える影響について、インフレーションは景気の過熱や投資・投機の拡大と結び付き、デフレーションは景気後退や不況と結び付いていることを理解する。また国際情勢が物価に影響を与える例として石油危機の学習を行い、スタグフレーションが引き起こした影響を理解する。 | | 2 |
| | | 財政による景気調整の機能として、増減税や公共支出を活用した伸縮的な財政政策(フィスカルポリシー)及び自動安定化装置(ビルト・イン・スタビライザー)について理解し、政府の財政政策がもつ国民経済への影響を考える。 | | 2 |

| | 指導内容 | 科目政治・経済の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|----------------|--|--------------|----------|
| 10 月 | 現代経済の仕組みと特質 | 金融政策の考え方や金融市場における金利動向について、中央銀行が公開市場操作を行うことで通貨供給量を調整していることや、金融市場における金利の動向が通貨供給量の変化に波及し、消費や貯蓄、投資行動に影響を与えることを理解する。そして、金融のグローバル化によって金融政策の困難さが増している現状について考える。 | 定期考査 授業態度 | 2 |
| | 国民経済と国際経済 | 同じ市場経済に基づく経済であっても、国や地域によって独自の歴史や文化的背景をもち、それぞれ特徴を有していることについて、我が国と欧米諸国との比較を通じて理解することで、国際問題における貿易のダイナミクスを考える土台を作る。 | | 2 |
| | | 経済活動と国民福祉との関連について、環境保全よりも経済成長を重視することで、公害などの外部不経済が発生し、結果、むしろ国民福祉が阻害される場合があることを事例とともに理解し、SDGsという言葉が生まれたことの本質の一端を追究する。 | | 2 |
| | | 貿易の意義について、アダム・スミスの見えざる手やリカードの比較優位説を踏まえて国際分業の利点を理解するとともに、国際収支の内訳や変動相場制の仕組み等について理解する。一方で、リストの保護貿易理論も参照しながら、資源の効率的配分の実現可能性について考える。 | | 2 |
| | | 国際貿易体制の動向をGATTの各ラウンド交渉の変遷を通じて知るとともに、ブレトンウッズ体制からスミソニアン協定を経て変動相場制へ移行したという、国際通貨制度の変遷について理解し、円安・円高メカニズムへの認識を深める。 | | 2 |
| 11 月 | 国民経済と国際経済 | グローバル化が進む国際経済における地域経済統合の概念を知り、EUのように政治統合まで志向する地域や、東南アジア諸国連合(ASEAN)のように経済統合を目指す地域など、様々な志向形態があることを理解するとともに、イギリスのEU離脱などにみられる「統合を目指し過ぎることの軋轢」について考える。 | 定期考査 授業態度 | 2 |
| | 現代日本の政治や経済の諸課題 | 南北問題の原因とその解決策及び南南問題と呼ばれる新たな経済的格差問題とその解決方法の試みについて知る。例えば、アラブ地域の産油国やアジアを中心とする新興国の発展とその課題について、資源ナショナリズムや国際通貨危機などと関連させて理解したり、途上国に対するODAやマイクロファイナンス、フェアトレードなどの活動があることを理解したりすることを通して、自分の行動範囲でできることは何か考える。 | | 2 |
| | | 少子高齢社会における社会保障の在り方について、政府による行政的な福祉政策を重視する考え方と、国民の自助努力を重視した福祉の考え方とがあり、具体的な事例を通じて、二つの考え方のどちらを重視すべきかについて意見を交換する。 | | 2 |
| | | 地域社会の特色ある発展を促すには、国と地方の関係を見直し、地方分権を推進するための政策や制度を改廃すること、およびそのための議論が必要であることを理解し、自身が所属する自治体の現状について考える。 | | 2 |
| | | 日本の今後の農業と食料の問題については、農業における生産、流通、貿易を自由化し、競争原理を導入する考え方と、国内農業を保護するための政策を推進する保護主義的な考え方があることを理解し、どちらを優先すべきかについて意見を交換する。 | | 2 |

| | 指導内容 | 科目政治・経済の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|----------------|--|--------------|----------|
| 12 月 | 国際社会の政治や経済の諸課題 | 地球環境と資源・エネルギー問題については、地球環境の保全を優先する考え方と、生活水準の向上を目指す経済発展(開発)を優先する考え方とがあることを理解し、どちらも調和的にめざすために持続可能な開発という概念が謳われるのだという構図を理解し、国家としてどちらを優先すべきかについて考える。 | 定期考査 授業態度 | 2 |
| | 国際社会の政治や経済の諸課題 | 国際経済格差の是正については、国際機関によるODAなどの経済援助を中心とする考え方と発展途上国の自助努力を中心とする考え方などがあり、発展途上国の経済的自立と地球の持続可能な発展が重要な課題であることを理解し、日本のODA額が00年代を通して減った事実なども踏まえ、望ましい格差是正の手段について考える。 | | 2 |
| 1 月 | 国際社会の政治や経済の諸課題 | 人種・民族問題や地域紛争については、少数民族の分離・独立という考え方と多数民族との共生という考え方とがあり、その二つの考え方をバランスよく参照しながら現実の地域紛争等の問題を理解しようとするところこそ、民主的な社会を実現させるための必要な態度であることを理解し、具体的なケースを通してその方法について考える。 | 定期考査 授業態度 | 4 |
| 2 月 | (特別時間割) | (特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。) | | |
| | (特別時間割) | (特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。) | | |
| | (特別時間割) | (特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。) | | |
| | (特別時間割) | (特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。) | | |
| 3 月 | (特別時間割) | (特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。) | | |
| | (特別時間割) | (特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。) | | |

狛江高等学校 令和3年度 教科 公民 科目 政治・経済演習 年間授業計画

教科：公民 科目：政治・経済演習 単位数：4単位

対象学年組：第3学年1組～6組の選択生徒

教科担当者：小倉

使用教科書：『高校政治・経済 新訂版』〈実教出版〉

使用副教材：『最新政治・経済資料新版2021』〈第一学習社〉

| | 指導内容 | 科目政治・経済の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|-----------------|---|--------------|----------|
| 4 月 | 民主政治の基本原則と日本国憲法 | 社会契約説について、現代の民主政治との関連を踏まえて学習する。例えば、ホプズとの比較の上でロックが説いた自然権に基づく国家・政府の在り方は現代の議会制民主主義の基盤となっていることなどを理解する。その上で、支配と権力の妥当性について考察し、現代の民主国家の成り立ちについての理解を深める。 | 定期考査 授業態度 | 4 |
| | | 大日本帝国憲法との違いを明確にしつつ、現行憲法の三大原理を理解するとともに、旧憲法では天皇が統治権を総攬するとしていたが、日本国憲法においては天皇が、内閣の助言と承認により国事に関する行為を行うとされる象徴天皇制となっていることを理解する。重要な視点として、根本的な立憲主義に照らしたときに現れる明治日本の民主制がもつ形式主義を常に批判的に考察するよう留意する。 | | 4 |
| | | 我が国における三権分立の仕組みについて、国会・内閣・裁判所の各機関の働きと相互の関係を踏まえて理解するとともに、議院内閣制の特徴を、とくに大統領制との比較によって理解する。そして、ドイツ・イタリアの象徴大統領制やイギリスの立憲君主制などの制度と比較しながら、三権分立がどう実現されているのかを整理する。 | | 4 |
| | | 現代の民主社会においては国民の代表者からなる議会によって法が定められており、国民には法を遵守する義務があることを理解する。しかし、それは広い目でみれば、国民主権の下に制定された憲法によって規定されたものである。そこから、国家は国民によって統治されているという構造を理解する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |
| 5 月 | 民主政治の基本原則と日本国憲法 | 自由権的基本権と社会権的基本権の相違を踏まえ、成立の背景に経済格差が存在していたことを理解しつつ、具体的な内容について理解する。例えば生存権の保障は、夜警国家から福祉国家への転換や福祉政策に関わる立法過程と深く結び付いていたことを理解する。ラッサールやアダムスミスなど対応人物を常に紐づけるよう留意する。 | 定期考査 授業態度 | 4 |
| | | 現代社会における相互の権利や利害対立を調整するための原理が「公共の福祉」とよばれ、これを常に参照し、合意に資する努力をすべきことを、経済的自由権の制限に関する判例学習を通して理解する。二重の基準に視点まで踏み込めるようなら踏み込む。 | | 4 |
| | | 我が国の議会制民主主義について、日本国憲法の条文に則して理解するとともに、議院内閣制を採用するイギリスや大統領制を採用するアメリカ合衆国の政治制度との比較を通じて、その特徴を理解し、そのメリット・デメリットについて考察する。その中で、我が国の行政国家化が進行していることに触れる。 | | 4 |
| | | 我が国の地方自治制度において、住民自治の実現を図るために憲法等で条例制定・改廃、議会の解散、議員・首長の解職等についての直接請求権が認められていることを知ることから、地方自治が民主主義の学校として期待されていることを理解する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |

| | 指導内容 | 科目政治・経済の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|--------|-----------------|--|----------------------|----------|
| 6 月 | 民主政治の基本原理と日本国憲法 | 同じ民主政治を採用しているとはいえ、世界各国の政治体制や政治状況は多様であることを理解するとともに、現代における福祉国家の広がりに伴って国家機能の複雑化が進行し、結果、現代国家が行政国家化している現状について考察する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | 定期 考査 授業 態度 | 4 |
| | 現代の国際政治 | 我が国の戦後政治史を概観し、中選挙区制の下での自民党による長期政権持続や、選挙制度改革後の政権交代の流れなど、選挙制度と政治情勢の変化について事例を踏まえて理解する。最終的に自民党優位体制が持続してきているという理解に着地する。 | | 4 |
| | | 国際社会の多極化が進行した世界で環境、人権、貿易などの分野で各国の対立が発生し、深まりをみせる中で、国際機関や非政府組織(NGO)による問題解決のための取組が強く求められている現状を理解し、自分たちがその活動にどのように参加していけるのかを考察、構想する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |
| | | 三十年戦争後のウェストファリア条約を端緒とする主権国家の成立や、主権国家体制と国際法による秩序形成の意義について理解し、現在の国際問題を考える土台とする。初期に行った領域や主権についての復習も行う。 | | 4 |
| 7 月 | 現代の国際政治 | 国際法上の人権、国家主権に関する規定を理解するとともに、我が国固有の領土である北方領土、竹島、尖閣諸島をめぐる問題の経緯と我が国の正当な立場と問題解決の難しさを理解する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | 定期 考査 授業 態度 | 8 |
| | | 冷戦後の国際政治の動向を踏まえ、人類の平和的共存を実現するには民族対立や国際紛争の背景にある「文化・宗教の多様性」について互いに理解を深めることが重要であることを、紛争の実例の学習を通して理解する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 8 |
| 9 月 | 現代経済の仕組みと特質 | 生産された財やサービスを効率的に分配するための仕組みとして私たちの国では市場経済が発達してきたことを理解し、それが世界史的な経済体制の動きと深い関係があることについて考え、日常を経済学的に切り出すことを通して、経済学的な発想を身に着ける。 | 定期 考査 授業 態度 | 4 |
| | | 家計、企業、政府の経済的な相互関係が国民経済の全体を構成していることや、貿易や為替における円高・円安の相場の変動や国際経済の動向が国内経済にも影響を与えることを理解する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |
| | | 需要供給曲線を活用して価格メカニズムについて理解するとともに、公害などの外部不経済の発生や、企業の巨大化に伴う寡占の広がりなど、市場機構が十分に機能しない場合には、政府による適切な政策を通じた公共財・公共サービスの供給が必要であることを理解する。グラフについては初歩的な部分からデモンストレーションして理解させる。 | | 4 |
| | | インフレーションやデフレーションの発生が国民生活に与える影響について、インフレーションは景気の過熱や投資・投機の拡大と結び付き、デフレーションは景気後退や不況と結び付いていることを理解する。また国際情勢が物価に影響を与える例として石油危機の学習を行い、スタグフレーションが引き起こした影響を理解する。ギャロッピングインフレやハイパーインフレなどの言葉の意味にも触れる。 | | 4 |
| | | 財政による景気調整の機能として、増減税や公共支出を活用した伸縮的な財政政策(フィiscalポリシー)及び自動安定化装置(ビルト・イン・スタビライザー)について理解し、政府の財政政策がもつ国民経済への影響を考える。自動安定化装置は政府が状況に応じて判断するのではないという部分を強調し、両者を比較して捉えるよう伝える。 | | 4 |

| | 指導内容 | 科目政治・経済の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|---------|----------------|---|--------------|----------|
| 10 月 | 現代経済の仕組みと特質 | 金融政策の考え方や金融市場における金利動向について、中央銀行が公開市場操作を行うことで通貨供給量を調整していることや、金融市場における金利の動向が通貨供給量の変化に波及し、消費や貯蓄、投資行動に影響を与えることを理解する。そして、金融のグローバル化によって金融政策の困難さが増している現状について考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | 定期考査 授業態度 | 4 |
| | 国民経済と国際経済 | 同じ市場経済に基づく経済であっても、国や地域によって独自の歴史や文化的背景を持ち、それぞれ特徴を有していることについて、我が国と欧米諸国との比較を通じて理解することで、国際問題における貿易のダイナミクスを考える土台を作る。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |
| | | 経済活動と国民福祉との関連について、環境保全よりも経済成長を重視することで、公害などの外部不経済が発生し、結果、むしろ国民福祉が阻害される場合があることを事例とともに理解し、SDGsという言葉が生まれたことの本質の一端を追究する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |
| | | 貿易の意義について、アダム・スミスの見えざる手やリカードの比較優位説を踏まえて国際分業の利点を理解するとともに、国際収支の内訳や変動相場制の仕組み等について理解する。一方で、リストの保護貿易理論も参照しながら、資源の効率的配分の実現可能性について考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |
| | | 国際貿易体制の動向をGATTの各ラウンド交渉の変遷を通じて知るとともに、ブレトンウッズ体制からスミソニアン協定を経て変動相場制へ移行したという、国際通貨制度の変遷について理解し、円安・円高メカニズムへの認識を深める。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |
| 11 月 | 国民経済と国際経済 | グローバル化が進む国際経済における地域経済統合の概念を知り、EUのように政治統合まで志向する地域や、東南アジア諸国連合(ASEAN)のように経済統合を目指す地域など、様々な志向形態があることを理解するとともに、イギリスのEU離脱などにみられる「統合を目指し過ぎることの軋轢」について考える。とくにアジア圏の経済連携は多種に及ぶので、把握しやすいように図示する。 | 定期考査 授業態度 | 4 |
| | 現代日本の政治や経済の諸課題 | 南北問題の原因とその解決策及び南南問題と呼ばれる新たな経済的格差問題とその解決方法の試みについて知る。例えば、アラブ地域の産油国やアジアを中心とする新興国の発展とその課題について、資源ナショナリズムや国際通貨危機などと関連させて理解したり、途上国に対するODAやマイクロファイナンス、フェアトレードなどの活動があることを理解したりすることを通して、自分の行動範囲でできることは何か考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |
| | | 少子高齢社会における社会保障の在り方について、政府による行政的な福祉政策を重視する考え方と、国民の自動努力を重視した福祉の考え方とがあり、具体的な事例を通じて、二つの考え方のどちらを重視すべきかについて意見を交換する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |
| | | 地域社会の特色ある発展を促すには、国と地方の関係を見直し、地方分権を推進するための政策や制度を改廃すること、およびそのための議論が必要であることを理解し、自身が所属する自治体の現状について考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |
| | | 日本の今後の農業と食料の問題については、農業における生産、流通、貿易を自由化し、競争原理を導入する考え方と、国内農業を保護するための政策を推進する保護主義的な考え方があることを理解し、どちらを優先すべきかについて意見を交換する。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |

| | 指導内容 | 科目政治・経済の具体的な指導目標 | 評価の観点・方法 | 配当 時数 |
|-----|----------------|---|--------------|----------|
| 12月 | 国際社会の政治や経済の諸課題 | 地球環境と資源・エネルギー問題については、地球環境の保全を優先する考え方と、生活水準の向上を目指す経済発展(開発)を優先する考え方があることを理解し、どちらも調和的にめざすために持続可能な開発という概念が謳われるのだという構図を理解し、国家としてどちらを優先すべきかについて考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | 定期考査 授業態度 | 4 |
| | 国際社会の政治や経済の諸課題 | 国際経済格差の是正については、国際機関によるODAなどの経済援助を中心とする考え方と発展途上国の自助努力を中心とする考え方などがあり、発展途上国の経済的自立と地球の持続可能な発展が重要な課題であることを理解し、日本のODA額が00年代を通して減った事実なども踏まえ、望ましい格差是正の手段について考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | | 4 |
| 1月 | 国際社会の政治や経済の諸課題 | 人種・民族問題や地域紛争については、少数民族の分離・独立という考え方と多数民族との共生という考え方とがあり、その二つの考え方をバランスよく参照しながら現実の地域紛争等の問題を理解しようとするところこそ、民主的な社会を実現させるための必要な態度であることを理解し、具体的なケースを通してその方法について考える。演習をおこない、定着度を逐次確認する。 | 定期考査 授業態度 | 8 |
| 2月 | (特別時間割) | (特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。) | | |
| | (特別時間割) | (特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。) | | |
| | (特別時間割) | (特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。) | | |
| | (特別時間割) | (特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。) | | |
| 3月 | (特別時間割) | (特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。) | | |
| | (特別時間割) | (特別時間割を活用した一年間の総復習および各自が設定した個別学習課題の探求を行う。) | | |

狛江高校 令和3年度 倫理 年間授業計画

教科：公民 科目：倫理 対象：第3学年1組～8組

教科担当者：1組：海野 2組：海野 3組：海野 4組：海野 5組：海野 6組：海野 7組：海野 8組：海野

使用教科書：『改訂版 倫理』〈数研出版〉

使用副教材：『スタディノート倫理』〈数研出版〉

| | 指導内容 【年間授業計画】 | 倫理の具体的な指導目標 【年間授業計画】 | 評価の観点 方法 | 予定 時数 |
|----|----------------------------------|--|--------------------------|----------|
| 4月 | 現代に生きる自己の課題 -人間とは何か- | 人間の本质や特徴に関する先哲の考えを紹介し、何を持って人間というかを考えさせるとともに人間の多様性や多義性を理解できるようにする。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 現代に生きる自己の課題 -青年期の意義と課題- | 青年期は、将来に向けた進路選択や、自己の生きかたについて個々ながら、自己を確立する基礎を培う時期であることを知る。自分を含めた青年が、どのような世代的特徴を持っているかを考えるとともに青年期の身体的・社会的・心理的な特徴を理解し、青年期の課題について考えられるようにする。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 現代に生きる自己の課題 -自我の発見と自己形成- | 自分の性格や能力などについて考察し、自立した人生を送るためには、アイデンティティの確立が必要不可欠であり、このことが青年期における最も重要な発達課題であることを知るとともに大人になるということの意味について考え、自立した社会人となるための意欲が持てるようにする。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 3 |
| 5月 | 現代に生きる自己の課題 -自己実現と生きがい- | 個性化と社会化の意味を理解し、その実現を目指す態度を持てるようにするとともに自己実現と生きがいの関わりを認識し、身近な人間関係を通して、他者とのかかわりにおいて生きることの大切さや他者を一人の人間として尊重することの大切さを知る。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 人間としての目覚 -西洋思想の源流と哲学の誕生- | 神話が人間に対して持つ意味と哲学が誕生してきた背景を理解し、哲学とは何を探求する学問なのかということへの関心と興味を持てるようにする。また、古代ギリシアにおける、西洋思想の源流ともいえるソクラテスとその思想について、「無知の知」などのキーワードとともに理解する。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 3 |
| | 人間としての目覚 -西洋思想の源流と古代ギリシア思想- | 古代ギリシアにおけるソクラテス後のプラトン、アリストテレスといった代表的な先哲とその思想について、「イデア」、「友愛」などのキーワードとともにその特徴を理解する。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 3 |
| 6月 | 人間としての目覚 -西洋思想の源流とキリスト教の誕生- | 宗教が人間に対して持つ意味について考察するとともに、自分なりの意見を持つことができるようにする。また、ユダヤ教の歴史と特徴について正しく理解する。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 人間としての目覚 -西洋思想の源流とイスラムの教え- | イエスの言行と思想について理解を深めるとともに、イエスの死後、パウロらの伝道によってキリスト教が世界宗教として広がる基礎が築かれていく過程とキリスト教の基本的な教えのあり方を理解する。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 人間としての目覚 -東洋思想の源流と古代インド思想と仏教- | イスラム教の興隆をしながらイスラム教成立の歴史的背景を理解し、ムハンマドの言行や「ハ信・五行」などの理解を通して、ムスリムの日常生活や基本的な価値観を理解する。イスラム社会における相互扶助や共同体の在り方など、聖俗一致を基本とするイスラム教の特徴について理解する。また、仏教の興隆を背景として、仏教の成立の歴史と特徴について正しく理解する。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 人間としての目覚 -東洋思想の源流と古代インド思想と仏教- | 日常生活を振り返って仏教への関心を抱くとともに、現代における仏教の意義について理解する。また、仏陀の説いた「四苦」、「八苦」、「煩惱」などの諸概念と、それらを克服し、涅槃に至る方法としての「八正道」について正しく理解する。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 人間としての目覚 -東洋思想の源流と古代インド思想と仏教- | 仏教における縁起や空の思想を正しく理解し、現実の生活のあり方を探求する姿勢を学ぶとともに、仏陀後の仏教の発展や上座部仏教・大乘仏教のそれぞれの思想を学ぶ。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |

| | | | | |
|-----|---|---|--------------------------|---|
| 7月 | 人間としての目覚 -東洋思想の源流と中国思想- | 日本社会にある儒教文化や中国思想について関心を持ち、諸子百家の代表的な思想を正しく理解するとともにその出現の背景や儒家が求めた仁や礼を理解する。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 人間としての目覚 -東洋思想の源流と中国思想- | 日本社会にある儒教文化や中国思想について関心を持ち、諸子百家の教え、特に孔子の教えについて理解するとともに、孟子の「性善説」と荀子の「性悪説」との比較等を通じて、両者の人間についての見方や考え方の相違について理解する。道家の思想内容を理解するとともに、現代社会にその意味を考える。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 人間としての目覚 -現代に生きる遺産- | 現代に残る代表的な歴史的遺産を取り上げ、それぞれの文化的な意味や歴史的意義を考えながら、それらが人類に与えた影響について正しく理解できるようにする。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 人間としての目覚 -現代に生きる遺産- | 現代に残る代表的な歴史的遺産を取り上げ、それぞれの文化的な意味や歴史的意義を考えながら、それらが人類に与えた影響について正しく理解できるようにする。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| 8月 | 一学期の復習 | 一学期の学習の整理と振り返りに取り組む。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 一学期の復習 | 一学期の学習の整理と振り返りに取り組む。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| 9月 | 現代に生きる人間の倫理 -西洋近代の思想:自然・科学と人間- | 現代の科学・技術と人間生活の関わりに興味と関心が持てるようにするとともに、近代科学の先駆者の功績について正しく理解する。また、デカルトやベーコンの思想の理解を通じて、科学的思考の意味について考える。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 現代に生きる人間の倫理 -西洋近代の思想:個人・社会と自由- | ホップズ・ロック・ルソーの思想の理解を通じて、国家(政府)の成り立ちや個人の権利についての考え方の相違に着目し、社会と個人のかかわりに焦点を当てて理解できるようにする。また、自由と自由の意味について考え、自分なりの意見を持つことができるようにする。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 3 |
| | 現代に生きる人間の倫理 -西洋近代の思想:個人・社会と自由- | カントの思想の理解を通じて理性的働きや人間の尊厳について考えられるようにする。ヘーゲルの思想の理解を通じて、法と道徳や家族と社会や国家の関係について考えられるようにする。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 現代に生きる人間の倫理 -西洋近代の思想:民社会の倫理- | ベンサム・ミルの思想の理解を通じて、幸福の問題について考えることができるようにするとともに、プラグマティズムの思想的特徴と、この思想が民主主義や教育に果たした意義を考察出来るようにする。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| 10月 | 現代に生きる人間の倫理 -現代の思想:現代思想の流れ- | 近代の理性中心的な考え方を問い直し、個人が自己の主体性を回復することの重要性を説いた実存主義の考え方について知る。ヤスパースやサルトルなどの思想理解を通じて、主体的に生きることの意味について考える。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 3 |
| | 現代に生きる人間の倫理 -現代の思想:現代の社会と生き方- | 先人の努力によって獲得された自由が、高度に発達した現代社会においてどのような形に捉えられ、変質しているかをフロムやウエーバー等の思想から考える。 ガンジーやシュバイツァーの思想や活動を理解し、現代におけるヒューマンイズムの意義について考える。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 3 |
| | 国際社会に生きる日本人としての目覚 -日本の伝統思想と東洋思想の需要- 日本の風土と古代日本人の考え方 国際社会に生きる日本人としての目覚 -日本の伝統思想と東洋思想の需要- | 近代の風土・地形・植生などの風土について考察し、和辻哲郎が唱えた「風土」の考え方を基に、モンスーン型の風土に生きる日本人の自然に対する受容的、忍従的な性格について理解するとともに日本古来の死生観や道徳観などを理解する。また、清めや祓いなどの古代以降の日本の思想・文化について考察し、その意義を考察するとともに、宗教と政治の関係を正しく理解する。鎌倉新仏教と末法思想の関連を理解し、日本仏教の宗派について関心を持ち、その特徴を正しく理解する。古典や芸能などの中に見られる仏教思想の影響に気づくことができるようにする。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 3 |
| | 国際社会に生きる日本人としての目覚 -日本の伝統思想と東洋思想の需要- 仏教の需要と展開 | 鎌倉新仏教と末法思想の関連を理解し、日本仏教の宗派について関心を持ち、その特徴を正しく理解する。古典や芸能などの中に見られる仏教思想の影響に気づくことができるようにする。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |

| | | | | |
|---------|---|---|--------------------------|----------|
| 11 月 | 国際社会に生きる日本人としての目覚 -日本の伝統思想と東洋思想の需要- -儒学の需要と国学の弁達 | 日常生活の中に見られる儒教的な儀礼について関心を持つ。国学の思想や神道思想について理解する。民衆の思想や洋学の思想的な特徴とその時代背景を理解する。日本人の中にある儒教的なものについて考える。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 国際社会に生きる日本人としての目覚 -西洋思想の需要と近現代の日本の思想- -近代の日本の思想 | 明治以降の日本のあり方について関心を持つ。明治維新の持つ意義について考察する。百家思想・キリスト教思想などについて思想的な特徴や意義について正しく理解する。近代文学や大正デモクラシー、近代日本の哲学の概略について理解するとともに、その思想が求めたものを考察する。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 3 |
| | 国際社会に生きる日本人としての目覚 -西洋思想の需要と近現代の日本の思想- -国際社会を生きる日本人 | 現代の国際社会の中で、わが国が果たしている役割の考察し、グローバリゼーションとナショナリズムとの関連性と今後の日本のあり方について考察する。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 国際社会に生きる日本人としての目覚 -西洋思想の需要と近現代の日本の思想- -日本思想の流れと伝統文化 | 古来の民族宗教を基礎として成り立つ日本文化が、仏教・儒教・西洋思想などの外来思想の影響を受けて現代日本の文化を生み出すに至った経緯に関心を持ち、正しく理解できるようにする。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 3 |
| 12 月 | 現代の諸問題と倫理 -あるべき社会を求めて- | 現代社会が抱える諸問題についての自覚や関心を持ち、現代社会の課題の背後にある思想を正しく理解する。また、現代社会が求めている価値について、マスメディア等を参考にしながら自分の意見を持てるようにする。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 3 |
| | 現代の諸問題と倫理 -現代の特質と倫理的課題- | 現代の生命科学に関心や興味を持ち、生殖技術や出生前診断、生命維持治療など、医療技術の進歩によって生じる新たな課題を多面的に捉え、従来の生命観のみでは対処できない問題が生じていることを理解する。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| 1 月 | 現代の諸問題と倫理 -現代の環境問題- | 現代の環境問題に関心や興味を持ち、地球環境問題を考察するための土台として、地球の有限性、世代間倫理、自然の生存権の3点を重視した環境倫理の考え方を理解する。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 3 |
| | 現代の諸問題と倫理 -情報化社会の功罪- | 情報化の進展について考察し、情報化社会とその抱える課題に関して、情報公開制度や情報リテラシー制度の活用を含めて積極的に関わろうとする態度を育む。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | 現代の諸問題と倫理 -さまざまな文化・宗教への理解- | グローバリゼーションがもたらす文化的な問題点について考察するとともに、多文化主義や文化相対主義の意味を理解し、自民族優越主義の克服による国際平和と人類の福祉の向上について探求する。 | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 2 |
| | (1年間の総復習と個別学習課題) (特別時間割) | (特別時間割を活用して、1年間の総復習と生徒各自の個別的な学習課題探求に取り組む。) | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | |
| 2 月 | (1年間の総復習と個別学習課題) (特別時間割) | (特別時間割を活用して、1年間の総復習と生徒各自の個別的な学習課題探求に取り組む。) | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | |
| | (1年間の総復習と個別学習課題) (特別時間割) | (特別時間割を活用して、1年間の総復習と生徒各自の個別的な学習課題探求に取り組む。) | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | |
| | (1年間の総復習と個別学習課題) (特別時間割) | (特別時間割を活用して、1年間の総復習と生徒各自の個別的な学習課題探求に取り組む。) | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | |
| | (1年間の総復習と個別学習課題) (特別時間割) | (特別時間割を活用して、1年間の総復習と生徒各自の個別的な学習課題探求に取り組む。) | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | |
| 3 月 | (1年間の総復習と個別学習課題) (特別時間割) | (特別時間割を活用して、1年間の総復習と生徒各自の個別的な学習課題探求に取り組む。) | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | |
| | (1年間の総復習と個別学習課題) (特別時間割) | (特別時間割を活用して、1年間の総復習と生徒各自の個別的な学習課題探求に取り組む。) | 定期考査及び興味・関心度・発表等の有無を総合評価 | 合計 70 |